

第四回日本工學會大會第15部會

日本鐵鋼協會第二十三回講演大會及び 第二十五回通常總會プログラム

第一日 昭和15年4月3日(水祭)講演會 午前九時開會

會場 東京市本郷區本富士町 東京帝國大學法文經第二號館

開會之辭 社團法人日本鐵鋼協會々長工學博士 齋藤大 吉君

場所 東京帝國大學法文經第二號館一階文科 28 號室

開會之辭終了後講演會場を第一第二の二部に分つ

第一會場 法文經第二號館一階文科 28 號室

第二會場 法文經第二號館二階文科 33 號室

講演 午前の部

時間	第一會場 (一階 28 號)	第二會場 (二階 33 號)
9.10~9.35	(1) 1,000 吨熔鑄爐の操業に就て 日鐵八幡製鐵所 工學士 松倉由次郎君	(21) 加壓に依る白點消失の研究 住友金屬工業會社製鋼所研究部副部長 工學博士 齋藤省三君 研究員工學士 山本信三君
9.40~10.05	(2) 試驗用小形熔鑄爐の研究 講演者 日鐵八幡製鐵所工學士 八木貴之助君 工學博士 谷口光平君 工學士 安田勇治君	(22) 純度高き海綿鐵及び屑鐵を原料とせるニッケルクロム鋼の機械的性質の比較 第2報 東北帝國大學教授 理學博士 岩瀬慶三君 講演者 本溪湖特殊鋼會社 工學士 熱田友二君

10 分 休 憩

10.20~10.45	(3) 鹽基性平爐及鹽基性弧光電氣爐に於ける窒素の性状に就て 住友金屬工業會社鋼管製造所 工學士 高寺健吉君	(23) 樹狀晶と其の鍛鍊 神戸製鋼所 工學士 梅澤光三郎君
10.50~11.15	(4) トーマス鋼と平爐鋼の材質比較研究 日本鋼管會社技術研究部 工學士 菊池浩介君 工學士 岩藤孟平君	(24) Ni-Cr 鋼及び Ni-Cr-Mo 鋼の變態及び焼入質量效果に就て 日本製鋼所室蘭製作所 理學士 下田秀夫君

日本鐵鋼協會第25回通常總會

日時 昭和15年4月3日(水祭)午前11時20分開會

會場 東京市本郷區本富士町 東京帝國大學法文經第二號館一階文科 28 號室

開會之辭 社團法人日本鐵鋼協會々長 工學博士 齋藤大 吉君

I 議 事

イ 昭和14年度會務報告

ロ 昭和14年度收支決算報告

ハ 昭和15年度收支豫算報告

ニ 任期満了役員、會長、理事、評議員改選並に新增員評議員選舉（投票、開票）

決議事項 本會定款並に定款施行細則改正の件

II 表彰式

イ 服部賞贈呈式

ロ 依賞贈呈式

ハ 渡邊賞贈呈式

總會閉會之辭

會長 齋藤大吉君

晝 食

講 演 午後之部

時間	第一會場 (一階 28 號)	第二會場 (二階 33 號)
1.00~ 1.25	(5) 混和ガス使用の平爐作業に就て 昭和製鋼所製鋼工場 工學士 敷納勳郎君	(25) 特許不銹鋼に就て 住友金屬工業會社鋼管製造所研究部 大倉幸雄君
1.30~ 1.55	(6) 燒結鐵礦に就ての二三の考察 東北帝國大學教授 工學博士 的場幸雄君	(26) 高速度工具に關する研究 吳海軍工廠製鋼實驗部 工學士 堀田秀次君
2.00~ 2.25	(7) 磁硫鐵礦に關する研究 哈爾濱工業大學助教授 工學士 森棟隆弘君	(27) 構造用低マンガン鋼の疲勞の強さに關する研究 日鐵八幡製鐵所 工學士 田川淺次郎君

10 分 休 憩

2.40~ 3.05	(8) 低品位ニツケル鑛の製煉に關する研究 北海道工業試驗場 工學士 佐野正夫君	(28) 特殊鋼に於ける滲炭平衡に就て 理化學研究所級高研究室 理學士 眞殿統君
3.10~ 3.35	(9) 急速可鍛鑄鐵の研究 第2報 九州帝國大學教授 工學博士 谷村照君	(29) 燃燒法に依る鐵鋼中の全硫黃定量法に就て 日本製鋼所室蘭製作所 理學士 金森祥一君
3.40~ 4.05	(10) 鋼の異常組織と含有元素及び粒度との關係 東北帝國大學教授 理學博士 岩瀬慶三君 講演者 金屬材料研究所 理學士 本間正雄君	(30) 日本標準一號引張試驗片の改正の可否 日鐵八幡製鐵所 元 森信夫君

10 分 休 憩

4.20~ 4.45	(11) 炭素鑄鋼に於ける不純物として錫の二三の影響に就て 神戸製鋼所 工學士 高尾善一郎君 工學士 伊勢末雄君	(31) 熔鋼中酸素迅速定量法に就て 海軍技術研究所々員 講演者 造兵少佐 工學博士 俵信次君 同研究所 佐藤晃君
4.50~ 5.15	(12) 砂鐵に存在するコバルトに就て 日本砂鐵工業會社 工學士 上野建二郎君	(32) 新裝置に依る鐵中の酸素定量法(水素還元法)に就て 日本特殊鋼會社 工學士 矢島忠和君

5.20~ 5.45	(13) 學振 19 小委第 5 號非金屬介在物に依る鋼品位測定標準 日本學術振興會第 19 小委員會委員長 東京帝國大學名譽教授 工學博士 佐 國 一君	(33) 各種鋼材より試作せる蔓卷ばねの耐久性に關する實驗に就て 南滿洲鐵道會社研究所 井 上 愛 仁君
------------	--	--

第一日講演終了

晚 餐 會 午後 6 時開會

會 場 東京市本郷區 東京帝國大學山上御殿 (山上會議所)

會 費 金參圓五拾錢也

第二日 四月四日 (木) 講演會 (會場前日同斷)

講 演 午前之部

時間	第一會場 (一階 28 號)	第二會場 (二階 33 號)
9.00~ 9.25	(14) 磨耗の研究 第 1 報 理化學研究所飯高研究室 工學士 海江田弘也君	(34) 鋼中に於ける水素の擴散に就て 日立製作所冶金研究所 工學士 芥 川 武君
9.30~ 9.55	(15) 磨耗粉末の被加工履歴に就て 日立製作所龜有工場 小坂誠市郎君	(35) 酸洗による水素吸収に就て 東北帝國大學講師 工學士 鶴 瀨 達 二君
10.00~10.25	(16) 1,100°C と 1,150°C との間に於ける鐵の化學變態に就て 吳海軍工廠製鋼實驗部 工學士 早 矢 仕 功君	(36) 鋼の反淬色の研究 日産自動車會社研究所 工學士 吉 城 肇 蔚君

10 分 休 憩

10.40~11.05	(17) 電子廻折に依る一般輕金屬の表面皮膜の研究 理化學研究所飯高研究室 理學士 山 口 成 人君	(37) 強韌耐蝕性アルミニウム青銅の研究 第 3 報 住友金屬工業會社伸銅所研究課 理學士 小 磯 五 郎君 楠 本 健 次君
11.10~11.30 (20分)	(18) ニッケルクロム鋼代用鋼の研究 大同製鋼會社 工學博士 錦 織 清 治君 工學士 淺 田 千 秋君	(38) 鋼材の火花試驗に關する研究 第 1 報 東京帝國大學教授 工學博士 三 島 德 七君 東京帝國大學工學部冶金學教室 講演者 工學士 三 橋 鐵 太 郎君

10 休 憩

11.45~ 0.00 (15分)	(19) 電子廻折法に依る磨耗の研究 第 1 報 理化學研究所々員 工學博士 飯 高 一 郎君 研究生 德 光 直君	(39) δ-鐵及び熔融鐵の窒素吸収に就て 吳海軍工廠製鋼實驗部 工學士 早 矢 仕 功君
午 後 0.05~ 0.30	(20) 諸元素の Al 中への熔融狀態に於ける擴散 (II) 大阪帝國大學助教授 工學士 上 村 勝 二君	(40) 熔鋼の輻射率に關する研究 住友金屬工業會社製鋼所研究部 理學士 菅 野 猛君

日本鐵鋼協會部會講演全部完了

第四回日本工學會大會

範 圍

一、東 洋

日 程

一、總 會	昭和十五年四月二日(火)	東京帝大安田講堂
二、部 會	四月三、四日(水、木)	各教室
三、見 學	四月五、六日(金、土)	東京附近
四、晚 餐 會	四月二日(火)夜	上野精養軒
五、工業展覽會	四月二、三、四日(火、水、木)	東京帝大構内
六、通俗講演會	四月 日	未 定
七、無線放送	四月 日	東京中央放送局

申 込

明春各學協會ヨリ送付スル大會次第書ニ依リ所屬ノ學協會ヘ申込ヲ爲スコト、但シ數箇ノ學協會所屬會員ハ希望ノ一學協會ヘ申込ヲ爲スコト。

第四回日本工學會大會規則

第1章 會ノ名稱、時期及場所

第一條 本大會ハ之ヲ第四回日本工學會大會ト稱シ昭和十五年四月東京ニ於テ之ヲ開催ス

第2章 會ノ目的

第二條 本大會ハ東洋諸國ニ於ケル工學及工業關係者協同シテ次ニ掲クル事項ヲ遂行スルヲ以テ目的トス

一、工學及工業ニ關スル論文ノ發表及意見ノ交換ヲ爲シ以テ智識ヲ増進シ且懇親ヲ圖ルコト

二、發表ノ論文、意見並決議ヲ記録シテ工學及工業ニ關スル參考資料ト爲スコト

第3章 會議及施設

第三條 本大會ハ總會及部會ノ二種トシ更ニ第二條ノ目的ヲ達成スル爲メ次ノ事業ヲ行フ

見學、記録ノ出版、工業ニ關スル展覽會、其ノ他會議ノ目的達成ニ必要ナル事項

第四條 總會ニ於テハ重要事項ノ審議及報告並會員ヨリ提出セラレタル決議事項ヲ審議ス

第五條 部會ニ於テハ論文ヲ發表シ之ニ對スル意見ヲ交換ス部會ハ發表セラルベキ論文ノ種類ニ應シ適宜數箇ニ分類シテ

之ヲ設ク

第六條 見學ハ東京地方ヲ主トス、但シ海外ヨリ來朝ノ會員ニ對シテハ其ノ他ノ地方ニ涉リテ之ヲ行フコトアルヘシ

第七條 本大會ニ於テ發表セラレタル論文、意見、決議ハ之ヲ刊行ス

第八條 展覽會ハ主トシテ日本帝國内ノ工業ニ就キ會期中適當ノ場所ニ之ヲ開ク

第4章 會ノ役員

第九條 本大會ニ會長、副會長、委員長、委員ヲ置ク、本大會ニ顧問ヲ置クコトヲ得

第十條 會長ハ日本工學會理事長之ニ當ル

會長ハ本大會ヲ統轄ス

第十一條 副會長ハ日本工學會社員タル各學會會長之ニ當ル副會長ハ會長ヲ輔佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス

第十二條 委員長ハ委員ノ互選ニヨリ決ス

委員長ハ大會委員ノ事務ヲ統轄ス

第十三條 委員ハ日本工學會社員タル各學會ノ推薦ニ係ルモノ及ビ日本工學會理事長之ヲ囑託ス

委員ハ庶務、講演、見學、展覽會、記録、會場、接待、晚餐會ノ區分ニ依リ各委員會ヲ組織シ本大會ノ計畫及實施ニ關スル事項ヲ分擔ス

第十四條 各委員會ニハ夫々主任ヲ置キ各委員會ノ事務ヲ主裁

各委員會主任ハ委員總會ニ於テ選舉ス
第十五條 各委員會主任ヲ以テ主任委員會ヲ組織シ大會委員長
ヲ以テ之ガ委員長ニ充ツ
主任委員會ニ於テハ各委員會ノ連絡及特ニ定メラレタル事項
ヲ審議ス
主任委員會ハ常ニ日本工學會理事ト連絡ヲ取ルモノトス
第十六條 日本工學會理事ハ會長及ビ委員長ヲ輔佐シ委員ト共
ニ大會事務遂行ノ任ニ當ル
第十七條 委員ノ職務ヲ輔佐スル爲メ事務員ヲ置ク
事務員ハ日本工學會理事長之ヲ囑託ス

第5章 會員ノ種類及資格

第十八條 會員ノ種類ヲ次ノ四種トス
一、代表 二、名譽員 三、正員 四、客員
第十九條 代表ハ各國ノ官衙、大學、專門學校、學會、協會其
ノ他ノ學術的諸機關ノ代表者トス
大學、專門學校、學會、協會其ノ他ノ學術諸機關ノ存在セザ
ル國ニ在リテハ之ニ準ズベキモノノ推薦ニ係ル者ヲ以テ代表
ト爲スコトヲ得
第二十條 名譽員ハ日本工學會評議員會ノ決議ニ依リ推薦セラ
レタル者トス
第二十一條 正員ハ工學及工業ニ關係アル各國ノ諸學會協會其
他學術的諸機關ノ會員ニシテ參會ノ申込ヲ爲シタル者トス
前項ノ外參會ノ申込ヲ爲シタル者ニシテ本大會主任委員會ニ
於テ前項會員ニ準スル者ト認メタル者ハ之ヲ正員トス
第二十二條 客員ハ本會ヨリ招待シタル者並代表、名譽員又ハ
正員ノ夫人及本大會主任委員會ノ銜ヲ經タル同伴者トス
第二十三條 代表、名譽員及正員ハ總會及部會ニ出席シ其ノ決
議ニ加ハリ且見學其ノ他本會ノ各種施設ニ參加スルコトヲ得
客員ハ前項ノ會員ト同一ノ待遇ヲ受ク、但決議ニ加ハルコト
ヲ得ス

第6章 論文ノ範圍及條件

第二十四條 本大會ニ提出スヘキ論文又ハ報告ノ範圍ハ工學及
工業ノ總テノ部門ニ涉リ其ノ關係箇所ノ地域ヲ限定セザルモ
ノトス
第二十五條 論文又ハ報告ハ指定題目ニ依ルモノ及任意題目ニ
依ルモノノ二種トス
第二十六條 指定論文又ハ報告ノ題目ハ講演委員會ニ於テ之ヲ
選定シ任意題目ニ就キ提出ノ論文又ハ報告ハ會議ノ目的ニ適
合スルヤ否ヤニツキ講演委員會ニ於テ之ヲ審査ス
前項論文又ハ報告ハ日本語ヲ以テ記述スルモノトス
但シ(イギリス語)又ハ(ドイツ語)ニ依ルヲ妨ケス
第二十七條 論文又ハ報告ハ講演委員會ニ於テ審査ノ上ニ次ニ掲
クル方法ノ一ニ依リ之ヲ處理ス
一、全部ヲ發表ス
二、所論ノ要旨ノミヲ發表ス
三、所論ノ項目ノミヲ發表ス
前項發表ノ方法、總會又ハ部會ニ於ケル朗讀、演述若ハ印
刷配布ノ方法ニ依ル

第7章 論文題目ノ種類

第二十八條 論文ノ種類ハ別ニ定ムル論文種類ノ通リトス

第8章 用 語

第二十九條 總會及部會ニ於テ用フヘキ國語ハ日本語トス
但シ(イギリス語)又ハ(ドイツ語)ヲ使用スルヲ妨ケス

第9章 會 費

第三十條、正員ハ參加會費トシテ金五圓ヲ支拂フモノトス、但
シ日本工學會ノ社員タル各學協會ノ會員ノ參加會費ハ金五拾
錢トス

第10章 細 則

第三十一條 本規則ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ細則ヲ
以テ之ヲ定ム
細則ハ主任委員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム

第四回日本工學會大會講演部門內容

- (1) 工學及工業ニ關スル一般的諸問題(工學會擔當)
工業教育; 工學的研究ノ統合及促進; 統計; 規格及標準化; 科
學的管理法; 工業技術者ノ國際的協力; 等
- (2) 應用力學(工學會擔當)
彈性論; 材料力學; 構造力學: 材料ノ機械的性質; 工業力學;
構造物及機械ノ振動; 流體力學; 水力學; 熱力學; 熱傳達; 等
- (3) 建築工學(建築學會擔當)
建築計畫; 建築歷史; 都市計畫; 住宅問題; 建築材料; 建築構
造; 採光換氣; 建築音響; 耐火; 耐震; 耐風建築; 防風建築;
等
- (4) 土木工學(土木學會擔當)
橋梁及構造物; 鐵道; 港灣; 河川; 運河; 灌溉; 水力發電; 上
下水道; 道路; 都市計畫; 測量; 等
- (5) 電氣工學(電氣學會擔當)
電氣物理; 電氣測定; 電子管; 電氣材料; 電氣機械; 發、送、
配電; 電氣鐵道; 電動力應用; 電氣化學; 等
- (6) 通信工學(電氣通信學會擔當)
有線電信; 有線電話; 無線電信; 無線電話; 寫真電送; 無線放
送; 無線標識; 電視; 鐵道信號; 光線電話; 水中電話; 等
- (7) 照明工學(照明學會擔當)
光源; 照明; 測光; 電熱; 等
- (8) 機械工學(日本機械學會擔當)
熱機關(航空發動機ヲ含ム); 蒸氣機; 水力機; 空氣機械; 工作
機械; 工作法; 起重機及運搬設備; 鐵道車輛; 自動車工學; 火
力及水力發電所工學; 紡織; 機構; 機素; 等
- (9) 精密機械及計測機器(火兵學會擔當)
測定機械器具; ゲージ類; 精密工作機械及工具; 治具及取附具;
材料試驗; 等
- (10) 造兵工學(火兵學會擔當)
火炮構造及理論; 射擊指揮裝置; 彈道學; 彈丸; 魚雷; 機雷;
火藥; 等
- (11) 冷凍工學(日本冷凍學會擔當)
冷媒; 冷凍機; 冷凍設備; 熱絕緣; 冷藏庫; 製氷工業; 冷藏輸
送; 等
- (12) 衛生工學(衛生工業協會擔當)
暖房; 換氣; 空氣調和; 衛生工事; 等

(13) 造船學、船舶機關學及航空工業（造船協會擔當）

理論造船學；造船設計及船體構造；主及補助機關；艙裝；救命設備；施工法；工場設備；航空工業；等

(14) 化學工業（工業化學會擔當）

無機及有機化學工業；合成化學工業；電氣化學工業；燃料；化學工業；等

(15) 採礦及冶金，金屬及合金（日本礦業會，日本鐵鋼協會擔當）

應用地質；採礦；選礦；鐵及非鐵冶金；金屬及合金；製造冶金；等

(16) 熔接工業（熔接協會擔當）

熔接機器；熔接棒及被覆劑；熔接接手；熔接ノ應用；各種試驗；等

(17) 鑄物工業（日本鑄物協會擔當）

銅鑄物；鐵鑄物；鋁合金鑄物，輕合金鑄物；等

注 1. 各學協會所屬會員ハ其ノ所屬學協會ノ擔當部門ニ論文ヲ提出スルノヲ原則トスル。

2. 第1部門（工學及ビ工業ニ關スル一般の諸問題）及第2部門（應用力學）ハ專門ヲ異ニスル者構集リ工學全體ニ互ル諸問題ヲ討議スルモノトシテ日本工學會ニ於テ直接部會ヲ擔當スルコトトシタモノデアリ。各學協會所屬會員ニシテ之等諸問題ニ關スル論文ニシテ他ノ部門ニモ屬シ得ル論文ヲ發表セントスル場合ニハ成ルベク之等2部門ニ於テ發表スル事ヲ希望スル、但シ論文ノ提出ハ各所屬學協會ヲ經由スルコト。